連合駿台会報

No.351　令和2年9月15日発行
発行・編集　連合駿台会
発行人　広報委員長・齋藤柳光
編集人　事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052千代田区神田小川町三―二二
明治大学「紫紺館」内
電話（〇三）三二九六―四七四七
印刷　有限会社　美　創

第六十六回連合駿台会総会を開催

第六十六回連合駿台会の通常総会が、令和二年七月二十二日、明治大学「紫紺館」四階会議室で開催されました。

開会に先立ち、先年度亡くなられた方々（河野典男氏、椎名茂樹氏、野口昌宏氏）および、今年度に入ってから逝去された江崎友次郎氏、梅津章氏に黙祷が捧げられた後、田村駿会長は開会を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い、会長が議長となり、議案の審議が進行されました。なお、第一号議案・第二号議案は関連性の高いものなので、両議案の説明後に一括して質問を受け、その後決議に入りたいとの提案が議長からあり、異議なく承認され、審議に入りました。

〇第一号議案

令和元年度事業報告書、収支計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽令和元年度の事業報告（①例会・総会…五回（三月例会は中止）、②理事会…四回、③その他〈正副会長会…一回、ビジネス勉強会&グルメ交流会…二回、オープンゴルフコンペ…二回、新入会員歓迎会…一回、「小田原・大磯の歴史的建造物見学&名料亭での昼食を楽しむ」バスツアー…一回、ラグビー明慶戦観戦と懇親会…一回、運営委員会…五回、各委員会〉、④会報発行…五回、⑤会員状況）について、当山明彦専務理事から報告があった。会員数については、新入会員は目標三十名を上回る三十六名、退会会員は二十一名にとどまったため、年度末の会員数は十五名増加して、三百七十七名となった。

▽令和元年度の収支計算書・貸借対照表・財産目録については、小山修財務委員長より以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、当期収入総額は１９６４万８１２７円（予算額１９５１万円・対予算比一〇〇・七％）。内訳では年会費収入が１５９０万５０００円（予算額１５５０万円・対予算比一〇二・六％）だが、例会費収入は２９６万円（予算額３２０万円・対予算比九二・五％）となったのは、新型コロナの感染拡大により三月例会が中止になったことによる。広告費収入は78万円（予算額80万円・対予算比九七・五％）で、ほぼ予算額通りだった。

・「支出の部」では、総務費関係は全体で６４万７８８１円（予算額５４０万円・対予算比一二三・一％）となっており、家賃共益費・人件費はほぼ予算通りだったが、事務通信費・備品消耗品費・印刷費・雑費はいずれも予算よりオーバーしている。事業費の各委員会運営費では、一番大きな予算を組む総務・事業委員会費が９６７万７７３５円（会員バッジ制作費を含む、予算額９８０万円・対予算比・九八・八％）をはじめ、すべての委員会が予算未達で、五委員会の総額では１４５８万７０６６円で、予算額１６９０万円に対する対予算比は八六・三％、２３０万円あまりの黒字だった。その他慶弔費も合わせ、当期支出合計は２１３５万６４７円（予算額２２５０万円・対予算比九四・九％）となり、これを受けて次期繰越収支差額は３７８５万６４５７円となった。

・「貸借対照表」では、借方「資産の部」が

小口現金、みずほ銀行・普通預金、ゆうちょ銀行・普通預金、みずほ銀行・定期預金、大和証券・ＭＭＦ、電話加入権の合計額５５８６万７６１７円で貸方「負債・正味財産の部」の額と一致している。結果、年度末の正味財産は５５８５万６４５７円となった。

▽監査報告（二宮充子監事）

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、令和二年七月十日付けで二宮充子監事・渡邊建三監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に行われており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

○第二号議案

各委員会令和元年度事業報告および令和二年度事業計画（案）・活動予算（案）、並びに収支予算（案）承認の件

▽総務・事業委員会　鈴木隆志委員長

〈令和元年度事業報告〉

①　年度後半、令和二年に入り、新型コロナウィルス感染拡大により例会と運営委員会を中止した。

②　例会五回（含む総会・駿台懇話会）、理事会四回、正・副会長会、運営委員会五回を開催した。特に十一月忘年例会は宇崎竜童氏のライブを開催、例会過去最高の百七十名以上の参加者があった。

③　新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会＆グルメ交流会、新入会員歓迎会）を開催。特に二月は山田憲典副会長講演の勉強会を交詢社で開催、過去最高の七十名を超える盛会となった。

③　会員相互の親睦会（バス旅行、ラグビー観戦、ゴルフコンペ二回）を開催した。

〈令和二年度事業計画・活動予算（案）〉

①　令和二年度年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。

②　例会出席者向上・親睦のために魅力ある楽しい例会の企画を検討する。

③　新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会＆グルメ交流会、新入会員歓迎会）を引き続き開催する。

④　会員相互の親睦会（スポーツ観戦、ゴルフコンペ等）を開催する。

【活動予算】　６８０万円

▽組織・会員増強委員会　髙澤徹委員長

〈令和元年度事業報告〉

①　委員会の開催

五回開催し入会審査の実施と、理事会上程および持ち回り理事会（二回）等、速やかな承認手続きの遂行をした。

②　会員増京活動の推進

入会者…目標三十名

〈実績〉新規入会＝三十六名、入会承認＝七名　辞退＝一名　　計四十二名

〈新規入会者内訳〉新社長就任・懇談会＝十七名、会員ご紹介＝二十五名

〈入会承認者内訳〉入会申込書未着＝七名

・平成三十一年四月一日時点の会員数…　三百六十二名

・令和元年度の実績　退会者…二十一名、入会者…三十六名 ⇓ 十五名増

・令和二年四月一日時点の会員数…　三百七十七名

③　会員の例会出席率の向上策の検討と実施

会員ご紹介による入会希望者の同伴費用は例会八名になり、入会促進につながった。

総務・事業委員会と連携して、二月に新入会員歓迎会を開催した。

〈令和二年度事業計画・活動予算（案）〉

①　委員会の開催

年五回を目安に入会審査の実施と速やかな承認（目標二十名）の手続きの遂行を行う。

②　会員増強活動の推進

新社長・役員リストによる入会活動と会員ご紹介を推進する。会員ご紹介による入会希望者の例会同伴費用を無料とする。

③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施を図る

過去三年の新入会員で例会無出席、または初回のみ出席当の方に対して、紹介会員のご協力もいただき、出席促進を行う。

【活動予算】 15万円

▽広報委員会　斎藤柳光委員長

〈令和元年度事業報告〉

① 会報（第三百四十五号～三百四十九号）を定期刊行して、会員相互の情報を共有して会の運営の円滑化を図るため、広報委員持ち回りで編集後記を積極的に出稿し、併せて、連動するホームページの活性化に努め、年度内でインフォメーションやニュース計三十一本をアップするなどして、例会などへの参加者増を目指し情報の充実を図った。

② 明治大学広報紙上初めてとなる大学支援広告を実現して、令和元年九月号から令和二年五月号まで隔月で計五回掲載し、各方面から多大な反響を得た。

〈令和二年度事業計画・活動予算（案）〉

① 現行のホームページを、大学組織の新体制や会の活動の変更や拡充に伴い、大幅にリニューアルする。また、機能的にもさらなる有用なスマホ対応や、今後求められるＳＮＳ対応などもできるように、ソフトの充実を図る。

② 明治大学広報の支援広告を七月、九月、十一月、一月、三月、五月号（予定）の計六回掲載する。

③ 懸案である携帯電話番号を使うＳＭＳの実用化を図り、例会等のリマインド連絡など積極的に活用していく。

④ 年賀名刺広告の募集方法を検討して、早期の案内や制作態勢を整え、より多くの会員に「活動費の支援」という認識で参加を促していく。

【活動予算】 ３０６万円

▽大学支援委員会　浅井宏委員長

〈令和元年度事業報告〉

① 学術賞一名・学術奨励賞二名を一月二十二日の駿台懇話会にて各賞を授与。

② 連合駿台会寄付講座をグローバルフロント・ホールにて、春期・秋期の講座を実施。

・春期（七月二日）鷹野正明氏（㈱ぐるなび顧問／「自ら考える、動く、繋げる」）

・秋期（十一月二十九日）江崎徹氏（㈱はせがわ代表取締役社長／「終活の現状と日本人の供養心」）

③ フューチャースキル（ＦＳ）養成講座（商・経営学部）を会員企業十社の協力のもと実施。ＦＳ講座の延長線として連合駿台会協賛「商学部学生対抗プレゼン大会」と、特に一年次生を対象に「商学部・経営学部ＦＳ部門学生対抗プレゼン大会」を実施し、優勝チームに副賞を添え表彰した。

④ 就職キャリア支援事務室と連携し、新入留学生向け「日本企業への就職活動支援」のための説明会（二回目）を会員企業の協力をいただき開催。ただし年度後半の計画は、コロナ感染症拡大で中止した。

⑤ ホームカミングデー、シェイクスピアプロジェクト、お茶の水ＪＡＺＺ祭（開催は翌年に延期）は例年通り協賛。

〈令和二年度事業計画・活動予算（案）〉

① 今年度の学術賞・学術奨励賞は中止になることが決まったが、今年度中止の分を、大学創立一四〇周年に当たる来年度に記念事業として拡大したいとの打診が、大学側からあった。

② 連合駿台会寄付講座は、春期は中止、秋期は条件付きで開催可能となっている。

・春期（六月五日）佐野公哉氏（㈱片倉工業代表取締役会長）→中止
・秋期（十一月頃開催）講演者選定を含み検討中

③　フューチャースキル（ＦＳ）養成講座は、商・経営学部からの増設要請に合わせ三講座を追加し十三講座を開催予定だったが、コロナ禍の影響で講座数を減らし、オンライン授業として実施中。プレゼン大会も例年と異なり、事前提出された優秀チームによるオンライン審査が検討されている。大会の表彰式やＦＳ講座の反省会などは、コロナによる自粛制限の緩和状況を見極めながら実施される予定。

④　新入留学生向け「日本企業への就職支援」活動は見通しが立たず、オンライン開催も検討に入れている。

⑤　ホームカミングデー、シェイクスピアプロジェクト、お茶の水ＪＡＺＺ祭（昨年度分が今年度に延期）の協賛については前年度実績通りだが、開催されるかどうか不透明な状況にある。

【活動予算】　１５０万円

▽財務委員会　小山修委員長

〈令和元年度事業報告〉

①　当年度中の新規入会者数は目標の三十名（三十名）に対し三十六名（二十九名）、退会者は二十一名（十八名）で昨年度より増加したが、結果としては、十五名（十一名）の純増となった。

②　会費未納者数は、三百七十名中二十四名（三百六十二名中二十九名）で、会費未納率は六・五％となり、平成三十年度末の八・〇％と比較すると一・五ポイント下がった。これは十一月末現在の未納者六十七名に対し十二月に再請求をかけたところ、四十七名の入金があったことにも起因すると思われる。ちなみに平成二十九年度末は五・六％、同二十八年度末は七・〇％と、ほぼ同程度で推移している。

③　年会費収入は、当初予算の１５５０万円（１５００万円）に対して１５９０万５５００円（１５１１万４５００円）で、約40万円（約12万円）の増収、対予算比は一〇二・六％（一〇〇・八％）。
※以上、（　）内の数字は、すべて平成三十年度末のもの

④　〈令和二年三月三十一日現在〉
☆会費納入見込み会員数…三百七十名
一般…三百八名　地方…六十二名
☆会費納入者数…三百四十六名
一般…二百八十五名　地方…六十一名

〈令和二年度事業計画・活動予算（案）〉

①　年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理の徹底化を図り、財産基盤が損なわれないよう、収支差額予算を達成する。

②　当会資産の活用方法について協議し、使途などを提案する。

【活動予算】　10万円

【令和二年度収支予算（案）】

①　収入の部では、コロナ禍による会員の退会者増加なども見込んで、年会費収入は昨年度実績より１００万円弱減らし、同様に新入会員入会金分も三十名から二十名（60万円）とし、計１４６０万円とした。例会費収入はすでに五月は中止、今回の七月総会も懇親会なしで行ったので、「これから例会を行える」という前提のもと、百名出席×四回と見込んで２００万円とした。ただしこれは今後の状況によって大きく変わってくるので、あくまでも不確定な予算額である。広告費収入と雑収入はともに昨年の実績に基づき想定し、当期収入計は１７４１万円。前期繰越収支差額をプラスした結果、当期収入合計は５５２６万６４５７円となった。

②　支出の部では、総務費は昨年同様の５４０万円、事業費は先ほど各委員長から

計上された額の合計１１６１万円に、従来通りの慶弔費10万円と予備費10万円を加えて当期支出の合計は１７２１万円、当期収支差額は20万円、次期繰越収支差額は３８０５万６４５７円となった。

③ このように今年度は、収入・支出ともコロナ禍の状況によって大きく変わってくるので、あくまでも現段階での予測に基づいて作成している。

第一号議案・第二号議案については、満場一致で可決・承認された。

第三号議案
役員改選の件

田村会長から以下のような説明があった。

役員の任期は、規約第10条に定められているように一期二会計年度であり、今回が全役員の任期満了となる。私は会長を二期四年務めたので、本来なら改選に当たるが、ご承知のように、今年はコロナ禍という今までに経験したことのない特殊な事情下にあって、いまだ活動もままならない状況にある。加えて来年は大学の創立一四〇周年事業も控えているということで、私がもう一期会長を務めることにしたことをご理解いただきたい。

また役員改選の主な目的としては、世代交代を考慮しつつ、この状況に対応できるよう、各委員会を充実させるということに重点を置いて人事を決めさせていただいたことをご報告する。

※新役員については、九ページの「運営組織表」を参照のこと。

第三号議案については、全員異議なく承認された。

第四号議案
その他

当山明彦専務理事から、以下の説明があった。

・令和二年度の連合駿台会活動基本方針に関しては、今まで同様の方針を踏襲し進めていく。

・令和二年度の例会日程等については、例会予定表を参考していただきたいが、これはあくまでも現段階での予定なので、今後の日程（日程変更を含む）等に注意していただきたい。

以上

上記議事録は、適切に記録されているものと認める。

議事録署名人　河村　博
議事録署名人　浅井　宏

令和元年度　連合駿台会　収支計算書

自：平成31年4月 1日

至：令和 2年3月31日　　（単位：円）

収 入 の 部				実績摘要（収入の部）
勘定科目	予算額	実 績	予算比	
年会費収入	15,500,000	15,905,000	102.6%	（一般）290名、（地方）61名　（新会員入会金）35名×@30,000＝15,905,000円
例会費収入	3,200,000	2,960,000	92.5%	*例会…計5回（予算＝110名×5回 ⇒実質＝平均約128名×4回×@5,000円）＋（予算＝90名 ⇒実質＝81名×1回×@5,000円）＝2,960,000円
広告費収入	800,000	780,000	97.5%	名刺広告代（@10,000円×63件＋@30,000円×5件）
雑収入	10,000	3,127	31.3%	みずほ普通預金・みずほ定期預金・ゆうちょ銀行利息
当期収入計	19,510,000	19,648,127	100.7%	
前期繰越収金	39,558,977	39,558,977	100.0%	
合　　計	**59,068,977**	**59,207,104**	**100.2%**	

支 出 の 部				実績摘要（支出の部）
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
Ⅰ．総務費				
（1）家賃共益費	650,000	629,445	96.8%	紫紺館事務所家賃
（2）人件費	2,200,000	2,287,000	104.0%	事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
（3）事務通信費	1,000,000	1,426,969	142.7%	電話代（約250,000円）／例会資料等発送費（約900,000円）／振込手数料ほか（280,000円）
（4）備品消耗品	500,000	930,087	186.0%	文具代・飲物代ほか（約470,000円）／発送用封筒・会員ネーム札作成＆刻印代（約350,000円）／名刺代（約110,000円）
（5）印刷費	650,000	894,902	137.7%	事務局コピー機リース代（約200,000円）／コピー用紙代ほか（約700,000円）
（6）雑費	400,000	479,478	119.9%	事務局交通費等
総務費計（Ⅰ）	**5,400,000**	**6,647,881**	**123.1%**	
Ⅱ．事業費				
1.各委員会運営費				
（1）総務・事業委員会費	9,800,000	9,677,735	98.8%	例会賞講師謝礼等（約4,520,000円）／会員バッジ制作費（約2,160,000円）／連合委員長・新入会員歓迎会・正副会長会費（約680,000円）／名簿代（約420,000円）／各種事業費・委員会・諸経費（約1,900,000円）
（2）組織・会員増強委員会費	200,000	40,000	20.0%	例会費補助（40,000円）
（3）広報委員会費	3,000,000	2,603,197	86.8%	会報発行費（1,730,000円）／HP運営業務委託費（約360,000円）／明大広報広告費（400,000円）／委員会費（約110,00円）
（4）大学支援委員会費	3,800,000	2,206,034	58.1%	学術賞・奨励賞賞金＋副賞ほか（約1,410,000円）／寄付講座経費（約720,000円）／学生支援プレゼン協賛金（160,000円）／大学行事協賛金（500,000円）／委員会費（約20,000円） ※上記支出から昨年度計上未払分600,000円分を差引して計上
（5）財務委員会費	100,000	60,100	60.1%	委員会費（60,1000円）
各委員会運営費計	16,900,000	14,587,066	86.3%	
2.その他事業費				
（1）慶弔費	100,000	115,700	115.7%	
その他事業費計	100,000	115,700		
事業費計（Ⅱ）	**17,000,000**	**14,702,766**	**86.5%**	
Ⅲ．予備費　　事業費計（Ⅲ）	**100,000**	**0**		
当期支出合計（Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）	**22,500,000**	**21,350,647**	**94.9%**	
次期繰越収支差額	**36,568,977**	**37,856,457**	**103.5%**	

令和元年度　連合駿台会　貸借対照表

自：平成31年4月 1日
至：令和 2年3月31日　　（単位：円）

資産の部		負債・正味財産の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
（流動資産）	**55,857,317**	**（流動負債）**	**11,160**
小口現金	491,453	源泉預り金	11,160
みずほ銀行・普通預金	1,413,148		
ゆうちょ銀行・普通預金	3,488,846	**（正味財産）**	**55,856,457**
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	1．有志寄付金	18,000,000
大和証券・M. M. F.	12,463,870	2．次期繰越収支差額	37,856,457
（固定資産）	**10,300**		
電話加入権	10,300		
資産合計	**55,867,617**	**負債・正味財産合計**	**55,867,617**

令和元年度　連合駿台会　財産目録

自：平成31年4月 1日
至：令和 2年3月31日　　（単位：円）

科　目	金　額		
1．資産の部			
（1）流動資産			
小口現金	491,453		
みずほ銀行・普通預金	1,413,148		
ゆうちょ銀行・普通預金	3,488,846		
みずほ銀行・定期預金	38,000,000		
大和証券・M. M. F.	12,463,870		
流動資産合計		55,857,317	
（2）固定資産			
電話加入権	10,300		
固定資産合計		10,300	
資 産 合 計			**55,867,617**
2．負債の部			
（1）負債の部			
源泉預り金	11,160		
流動負債合計		11,160	
負 債 合 計			**11,160**
正 味 財 産			**55,856,457**

令和2年度　連合駿台会　収支予算

自：令和2年4月 1日
至：令和3年3月31日

収 入 の 部		摘　　要（収入の部）
勘定科目	予算額	
年会費収入	14,600,000	＊（一般）270名×@50,000円＝13,500,000円、（地方）50名×@10,000＝500,000円 （新入会員入会金）20名×@30,000＝600,000
例会費収入	2,000,000	＊例会（5回）… 100名×4回×@5,000 ＝ 2,000,000円
広告費収入	800,000	
雑収入	10,000	＊預金利息
当期収入計	17,410,000	
前期繰越収支差額	37,856,457	
当期収入合計	**55,266,457**	

支 出 の 部		摘　　要（支出の部）
勘定科目	金　額	
Ⅰ．総務費		
(1) 家賃共益費	650,000	＊紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	＊事務局関連業務委託費及び会報発行業務費等
(3) 事務・通信費	1,000,000	＊電話代/例会資料等発送費/振込手数料ほか
(4) 備品消耗品	500,000	＊発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代ほか
(5) 印刷費	650,000	＊事務局コピー機リース代/コピー用紙代ほか
(6) 雑費	400,000	＊事務局交通費/資料代ほか
総務費計(Ⅰ)	**5,400,000**	
Ⅱ．事業費		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務・事業委員会費	6,800,000	例会費・講師等謝礼(5,000,000円)/正・副会長費、運営委員会費(600,000円)/名簿発行費(400,000円)/各種事業費(700,000円)/諸経費(100,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	150,000	新入会員定着活動費(50,000円)/会員増強活動費(100,000円)
(3) 広報委員会費	3,060,000	会報発行費(1,500,000円)/HPの管理・維持費(360,000円)/HPリニューアル関連経費(600,000円)/大学支援広告費(500,000円)/委員会費(100,000円)
(4) 大学支援委員会費	1,500,000	寄付講座および諸経費(350,000円)/「学生対抗プレゼン大会」(仮称)副賞ほか費用(700,000円)/「留学生就職支援」関連費(100,000円)/大学行事協賛金(300,000円)/委員会費(50,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	委員会費(100,000円)
各委員会運営費計	11,610,000	
2. その他事業費		
(1) 慶弔費	100,000	
その他事業費計	100,000	
事業費計(Ⅱ)	**11,710,000**	
Ⅲ．予備費　　事業費計(Ⅲ)	**100,000**	
当期支出合計（Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）	**17,210,000**	
当期収支差額	**200,000**	
次期繰越収支差額	**38,056,457**	

連合駿台会運営組織表

〈理 事 会〉
《会長》田村 駿

《副会長》
山田 憲典
青柳 勝栄
山田 朝彦
畠中 君代
佐藤 健
山田 幸夫
徳丸 平太郎
向井 眞一
浅井 宏
栗原 権右衛門
中川 敏洋
三枝 富博
山本 良一
木下 唯志
西澤 豊
坂田 正弘
狩野 省市
佐野 公哉
草木 頼幸
池田 一義
河村 博
沓掛 英二
木村 健一
《特別顧問》
長堀 守弘
山口 政廣
北野 大
《顧問》
根田 哲雄
兒玉 圭司
前川 一郎
藤巻 伴英
原田 榮
二宮 充子
圷 昭二
村田 嘉一
村岡 健
武田 宣夫
有賀 隆治
丸山 律夫
上西 紘治
岡本 満夫
鈴木 紘一
佐藤 仁
水江 博
潮田 伊佐夫
大原 幸男
並木 洋一

運営役員
《専務理事》
当山 明彦
《常務理事》
齊藤 柳光
高澤 徹
伊原 敏雄
吉田 光一郎
鈴木 隆志
《常任理事》
長谷川 進一
杉浦 伸二
松崎 優子
眞壁 八郎
宮下 隆
高橋 郁夫
栢森 靖
古賀 慎一郎
大野 正美
安達 明正
室井 恵明
大石 哲也
《理事》
小島 清治
平田 静子
宇川 一夫
富流水 孝二
青木 幹則
関根 均
大前 実之
石橋 良一
馬場 範夫
奥村 勝広
弓野 理恵
林 威樹
阿部 倫明
辻井 知明
古本 英樹
中根 武
鬼塚 和也
谷原 誠
宮本 浩二
根田 吉雄
塙 英幸
相臺 志浩
山口 大介
神林 光

《監事》
小山 修
渡邊 建三

＜総務・事業委員会＞
委 員 長　鈴木 隆志
副委員長　杉浦 伸二　宮下 隆　大野 正美　室井 恵明
担当委員　辻井 知明　中根 武　鬼塚 和也　塙 英幸
　　山口 大介　神林 光
・例会の運営、講師などの交渉
・新年会、バス旅行、オープンゴルフ会など親睦活動の開催
・その他、大学関係のイベントへの参加奨励など

〈組織・会員増強委員会〉
委 員 長　高澤 徹
副委員長　長谷川進一　栢森 靖
担当委員　宇川 一夫　関根 均　石橋 良一　馬場 範夫
　　奥村 勝広　古本 英樹
・新会員増強のため種々のプログラム実施
・新会員入会審査
・長期的に見た会員入会基準のスタディと新提案

〈広報委員会〉
委 員 長　齋藤 柳光
副委員長　大石 哲也
担当委員　平田 静子　弓野 理恵　宮本 浩二　根田 吉雄
　　相臺 志浩
・会報の発行並びに編集
・ホームページの維持・管理
・会員間の情報交換を促進

〈大学支援委員会〉
委 員 長　伊原 敏雄
副委員長　眞壁 八郎　高橋 郁夫　安達 明正
担当委員　小島 清治　富流水孝二　青木 幹則　大前 実之
　　林 威樹　阿部 倫明
・大学が求める支援プログラムについて個々に検討、支援の
・学術賞の報奨金、対象者などについて効果的な支援策の検
・寄付講座など大学への諸行事の支援プログラムの計画・実

〈財務委員会〉
委 員 長　吉田光一郎
副委員長　松崎 優子　古賀慎一郎
担当委員　谷原 誠
・入会金、年会費、広告料など、当会資産の管理
・当会資産の活用方法について協議、使途などの提案
・新しい大学支援システムなどへのアドバイス

〈運営委員会〉 … 会長・専務理事・各委員長
・各委員会活動状況に関する、情報シェアおよび意見交換
・連合駿台会全体の活動についての提案と討議

1. **理事会** … 会長・副会長・専務理事・常務理事・
　常任理事・理事・特別顧問・顧問・監事
2. **各委員会** … 委員長は常務理事、副委員長は常任理事、
　担当委員は理事
3. **必要に応じて正・副会長会議を開催することができる**

令和2年7月22日　作成

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。

（敬称略・到着順）

石村　等（いしむら　ひとし）
昭和五十一年・商学部卒
大栄不動産㈱
取締役社長
東京都板橋区在住

上形　秀一郎（かみがた　しゅういちろう）
平成二十二年・商学部卒
㈱ノンピ　取締役副社長
東京都中野区在住

安藤　立美（あんどう　たつみ）
昭和五十年・法学部卒
東京信用保証協会
理事長
東京都杉並区在住

◆明大ニュース

●二〇一九年度私立大学等経常費補助金
明大は約三十七億円、全国十一位

日本私立学校振興・共済事業団は、二〇一九年度の私立大学等（大学・短期大学・高等専門学校）に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表した。本学への交付額は三十七億六千二十五万七千円となり、順位は全国十一位だった（前年度九位）。

私立大学等経常費補助金は、①私立大学等の教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③私立大学等の経営の健全性向上に資するため、日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受け、これを財源として全額、学校法人に対して設置学校の経常的経費について補助するものである。

この補助金には、各学校における教職員数や学生数等に所定の単価を乗じて得た基準額を教育研究条件の状況に応じて傾斜配分する「一般補助」と、教育・研究に関する特色ある取り組みに応じて配分する「特別補助」がある。

二〇一九年度の私立大学等経常費補助金の交付状況を見ると、交付学校数は八百六十一校、交付総額は三千百六十六億二千七百五十七万二千円であり、内訳では一般補助二千七百六十億二千七百三十五万八千円、特別補助四百六億二十一万四千円となっている。

このうち私立大学には、二千九百八十九億九千六十八万二千円が交付されている。交付額を大学一校当たりに換算すると五億一九〇八万千円で、学生一人当たり十五万円となる。

二〇一九年度は、特色ある教育の展開、特色ある高度な研究の展開、地域社会への貢献、社会実装の推進といった改革に全学的・組織的に取り組む学校に対する支援を強化するため、「私立大学等改革総合支援事業」として、三百十校に対し増額配分（一般補助および特別補助の内数）が行われた。

明治大学への交付額の三十七億六千二十五万七千円のうち、一般補助は三十億四千百三十九万円、特別補助は七億千八百八十六万七千円であった。

国から経常費補助金として財政支援を受けている大学は、社会の要請に応えるべく、教育・研究体制を構築していかなければならない。本学においても、グローバル社会で活躍できる人材の育成、研究成果の発信等による地域・社会との連携を中心に、緩みなく改革に取り組み、さらなる補助金の獲得を目指し積極的な展開を図っていく。

●リクルート進学ブランド力調査二〇二〇
「志願したい大学」で一位

リクルート進学総研が七月十六日に発表した「進学ブランド力調査二〇二〇」ランキング「志願したい大学」（関東エリア）で、明治大学が四年ぶりに一位となったことがわかった。文理別では「文系」で一位、「理系」で四位、さらに、「知っている大学」の項目では四位となるなど、明治大学が高校生から高い注目を集めていることが明らかになった。

このほか、イメージ項目別ランキングでは、「学びたい学部・学科がある」で昨年五位か

ら一位に大きく順位を上げ、「入試方法が自分に合っている」など複数項目で上位にランクインした（いずれも関東エリア）。

この調査は、リクルート進学総研が大学に対する志願度、知名度、イメージを把握することを目的に行っていて、今年で十三回目。二〇二〇年四月に関東・東海・関西の各地区の高校三年生約二万人の回答から集計された。明治大学は二〇一七年以降、三年続けて「志願したい大学」で二位を記録していたが、四年ぶりに一位に返り咲いた形となった。

「志願したい大学トップ5（関東エリア）」

1位	（2） 明治大学	8・7％
2位	（1） 早稲田大学	8・5％
3位	（3） 青山学院大学	7・7％
4位	（4） 立教大学	6・7％
5位	（6） 日本大学	6・5％

※（ ）内は昨年順位。％は志願度

「進学ブランド力調査二〇二〇」リクルート進学総研調べ

●春学期

約八千四百科目でオンライン授業を実施

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、明治大学では、二〇二〇年度春学期、大学として初めての取り組みとなる全学的なオンライン授業が実施された。

二月以降、新型コロナウイルスの感染が拡大していく中、学生の感染リスクの防止を図りながら教育活動を維持していくため、学内では、新年度の授業開始時期の繰り下げ、オンライン形式での授業実施について準備・検討が進められた。同時に、オンライン授業を円滑に行うため、動画配信用のメディアサーバーの増強や、オンライン会議システム（Ｚｏｏｍ有料版）の全教職員向けの使用ライセンスの調達に加え、学生への支援策として、ノートパソコンおよび通信機器の無償貸与や経済困窮者への経済的支援などが実施された。

春学期は約八千四百科目がオンライン形式を主として開講され、約二千三百人の教員が授業を担当した。

明治大学のオンライン授業は、「資料・課題提示型」、「オンデマンド型（収録動画配信型）」、「リアルタイム配信型（同時双方向型）」の三つの形態から選択、あるいはこれらを組み合わせた形で実施されており、予習や事後の課題提出などを通じて、従来行われていた対面授業に相当する教育効果を持たせることを目標としている。

なお、七月以降は、春学期特別補講期間（八月十七日～九月十二日）も活用しながら、実験・実習科目やゼミナール科目等の一部で、感染対策の徹底と、登校できない学生への配慮を徹底しつつ対面授業が実施されている。

また、教務部では、五月下旬と八月上旬の二回、全学生を対象とした授業アンケートを実施した。五月のアンケートでは九千六百七十六人、八月は七千二百三十人から回答があった。アンケート結果は教務部委員会、学部長会などの学内会議体で議論し、学生および教員向けに Oh-o!Meiji システムを通じてフィードバックするなど、学生の意見を汲み取りながら、コロナ禍における大学教育の質向上を目指した取り組みが続けられている。

●第二十三回 明治大学ホームカミングデー

今年は特設サイト（ホームページ）で開催

今年で二十三回目を迎える「ホームカミングデー」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、キャンパスでの開催は中止となりました。その代替措置として、ホームカミングデー特設サイト（ホームページ）が開設され、動画配信など校友の皆さまにお楽しみいただけるコンテンツが用意されます。ご自宅のパソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスしてご参加ください。

第二十三回ホームカミングデー特設サイトは十月二十五日（日）公開予定！

ＵＲＬは下記の通り。

https://www.meiji.ac.jp/koyuka/homecoming/

明治大学の将来を支援する経済、法曹、文化など各界のＯＢが集う「連合駿台会」

総会で田村駿会長を再選
（明治大学評議員会議長）

連合駿台会は７月22日に第66回通常総会を開催し、田村駿会長が満場一致で再選され、令和元年度事業報告、決算報告、令和２年度事業計画、収支予算などが承認されました。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況に留意しつつ、会員相互の交流の場として例会やビジネス勉強会、ゴルフ会などを計画しております。また、連合駿台会学術賞・学術奨励賞は中止になりますが、寄付講座や商学部・経営学部のフューチャースキル講座、留学生支援などを通じ母校の発展に貢献し、来年の明治大学創立140周年には質の高い支援をしてまいります。

各界で活躍されておられる明治大学校友のご入会を歓迎いたします

資料のご請求はこちらまで　連合駿台会事務局　TEL：03-3296-4747　FAX：03-3296-4748　HP：http://www.rengosundaikai.jp
Email：rengousundaikai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報（9月1日号）に掲載された大学への支援広告。今後2ヵ月に1回掲載していく予定です。

◆七月総会出席者

青柳勝栄、浅井宏、安達明正、泉山和久、伊原敏雄、宇川一夫、潮田伊佐夫、大石哲也、大野正美、大原幸男、大村託現、奥村勝広、鬼塚和也、金井健、栢森靖、川瀬透、河村博、神林光、草木頼幸、栗原権右衛門、古賀慎一郎、小島清治、兒玉圭司、小山修、小山有彦、根田吉雄、齋藤柳光、坂本孝行、佐藤健、佐藤仁、佐野公哉、柴田清之、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、関根均、相臺志浩、髙澤徹、髙橋郁夫、田村駿、辻井知明、寺本裕明、当山明彦、富水流孝二、中里猛志、中根武、西澤豊、二宮充子、萩原裕次、長谷川進一、畠中君代、塙英幸、平田桂子、平田静子、深代尚夫、福田和彦、藤代耕一、古本英樹、眞壁八郎、宮本浩二、村岡健、室井恵明、本橋尚樹、柳谷孝、山田朝彦、吉田光一郎、渡邊建三

【編集後記】

このたび連合駿台会広報委員を拝命いたしました平田静子です。

このコロナ禍においては、あらゆる会合や集会もままならず、なかなか様々なことが進まない状況にあります。しかし、物事には課題はあるし、すべてを止めるわけにはいかない。連合駿台会も然り。これからの連合駿台会をどうＰＲしていくか。実に大切です。

九月四日、新しい体制の広報委員会第一回目が齋藤委員長のもとコロナ対策をしながら開かれました。ちょっと残念なことだが、実は明治大学の中、そして卒業生にも連合駿台会を知る人は少ない。これは私も実感している。田村会長からも同様の発言があり、うーむこれはもったいないことだなと改めて感じた。なぜなら明治大学は素晴らしい人材を輩出している。財界、政界、法曹界を始めとした各界で活躍されている方が多いことをもっとアピールすることで、明治大学の名を高らしめることになるのではないか。明治大卒の誇りと結束の強さをさらに高めたいところである。そのような思いは、一人ひとりの小さな意識が積み重なって大きな意識、パワーになる事は間違いない。皆様のお力をいただきながら、連合駿台会の広報に努めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（平田静子）